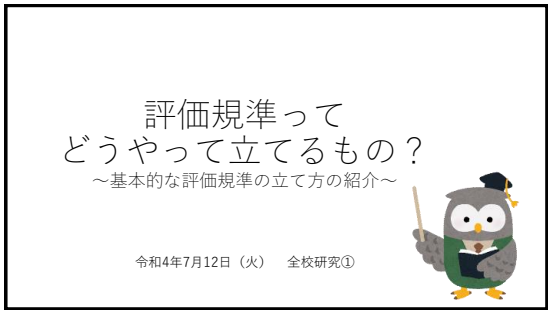
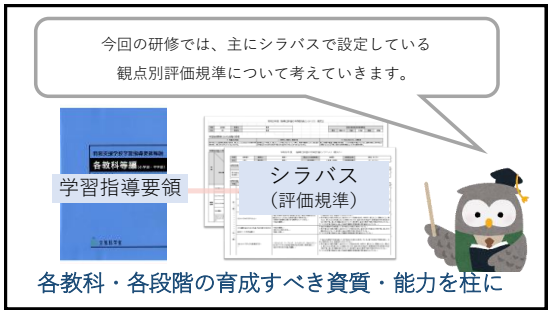
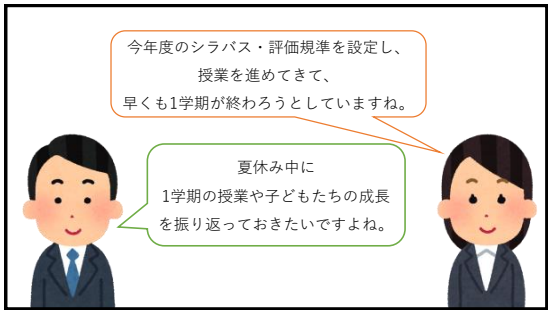
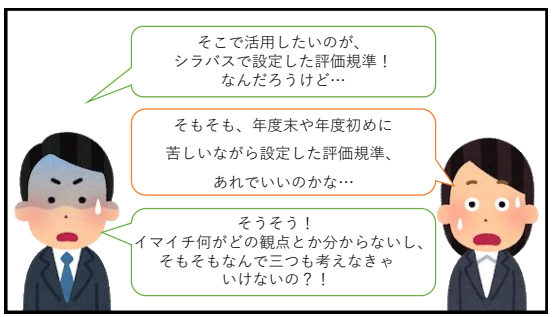
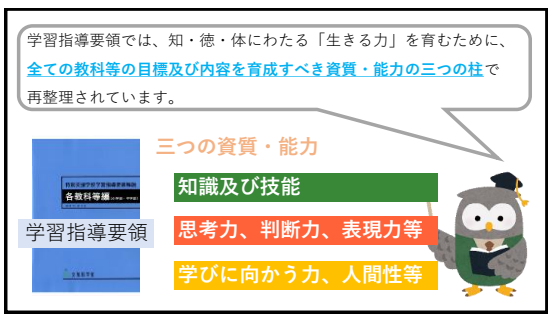
２．全体研修資料
（1）全校研究①

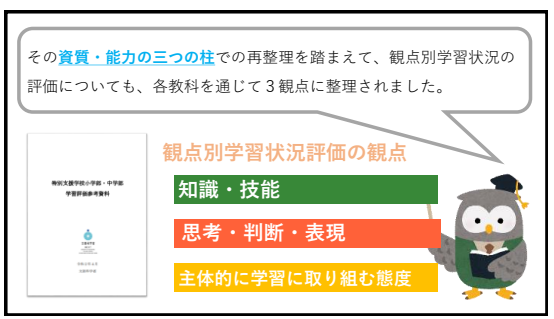


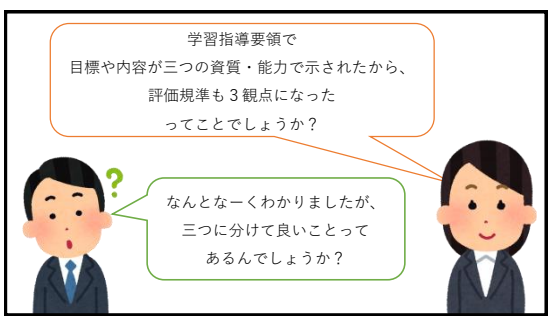




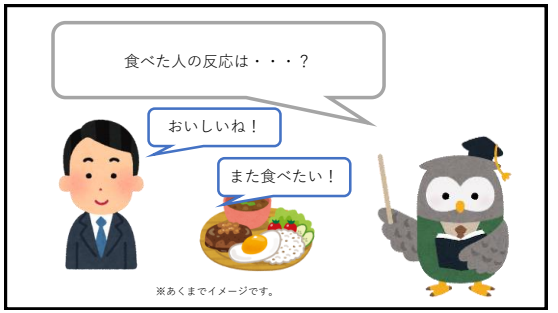








２．全体研修資料
（1）全校研究①



２．全体研修資料
（1）全校研究①

観点別学習状況の評価の意義

何が良くて、どこが課題だったのか、
次はどのようにすれば良いのかが、見えてきます。
そしてそれが
次の学習のめあてとなり、意欲につながります。

教師にとっては、生徒一人一人の学習状況を
分析的に捉えることができ、指導の改善に
生かすことができるようになります。

具体的な項目に分けて、
児童生徒の成長や学習の状況を捉えていくのって、
とても大切なんですね。

じゃあ早速シラバスの評価規準を
見直してみようかな。
まずは「知識・技能」でしょ。
えっと～…

もしかして…
『知識・技能』
『思考・判断・表現』
『主体的に学習に取り組む態度』
このワードから連想して、
評価規準をゼロから考えようと
していませんか？

特別支援学校小学部・中学部
学習評価参考資料
（令和2年4月 文部科学省）

この資料には、
各教科の各段階ごとの
観点の趣旨と
評価規準の設定の仕方
について示されています。

中学部保健体育科における各段階の評価及びその趣旨は以下のようになる。

【改善等通知 別紙４　1-2 体育・保健体育（１）評価の観点及びその趣旨＜中学部校保健体育＞】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等を理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。また、自分の生活における健康・安全について理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	各種の運動についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。また、健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとしている。

（改善等通知　別紙４　P.27）

【１段階】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方が分かり，基本的な動きや技能を身に付けている。 ・体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けている。	・各種の運動における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。 ・健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。	・各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。 ・健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとしている。

評価規準を考える際には、
まず該当する教科・段階の観点の趣旨を
確認することが大切です。

この時点で、シラバスに記載している評価規準が
既に各観点の趣旨から外れていることが
あるかもしれません。
確認してみてくださいね。

そもそも評価規準とはどのようなものか
ご存知でしょうか？

評価規準とは、観点別学習状況の評価を
的確に行うためのもので、
学習指導要領に示す目標の実現状況を
判断するためのものになります。

※ちなみに『評価規準』（成長の姿として文章表記したもの）と『評価基準』（評価規準に対して習得状況の程度を示すための指標）は異なるものです。変換ミスにご注意を。

このため、「学習評価参考資料」には、
目標や評価規準の設定の仕方について、
以下のように示されています。

学習指導要領の「（２）内容」の記載はそのまま
目標となりえる。
「（２）内容」の記載事項の文末を
「～すること」から「～している」と示すことで
評価規準として作成することができる。

２．全体研修資料
（1）全校研究①

2　保健体育科の目標

学習指導要領
中学部保健体育科教科目標

柱書

1　目　標

体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を見付け，その解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能　(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び自分の生活における健康・安全について理解するとともに，基本的な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等　(2) 各種の運動や健康・安全についての自分の課題を見付け，その解決に向けて自ら思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。

学びに向かう力、人間性等　(3) 生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かな生活を営む態度を養う。

---

(1)　1段階の目標と内容
ア　目標

学習指導要領
中学部保健体育科1段階目標

(1) 目　標

知識及び技能　ア　各種の運動の楽しさや喜びに触れ，その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止，病気の予防などの仕方が分かり，基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等　イ　各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け，その解決のための活動を考えたり，工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。

学びに向かう力、人間性等　ウ　各種の運動に進んで取り組み，きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り，友達と協力したり，場や用具の安全に留意したりし，最後まで楽しく運動をする態度を養う。また，健康・安全の大切さに気付き，自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

中学部保健体育科の内容は、二つの段階において、
体育分野として７領域，保健分野として１領域で示されています。

1段階・２段階	
A　体つくり運動	E　球技
B　機械運動	F　武道
C　陸上運動	G　ダンス
D　水泳運動	H　保健

学習指導要領
中学部保健体育科 1段階 内容 E球技

E　球技

球技について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識及び技能　ア　球技の楽しさや喜びに触れ，その行い方が分かり，基本的な動きや技能を身に付け，簡易化されたゲームを行うこと。

思考力、判断力、表現力等　イ　球技についての自分の課題を見付け，その解決のための活動を考えたり，工夫したりしたことを他者に伝えること。

学びに向かう力、人間性等　ウ　球技に進んで取り組み，きまりや簡単なルールを守り，友達と協力したり，場や用具の安全に留意したりし，最後まで楽しく運動をすること。

※小学部体育科、中学部・高等部保健体育科の（体育分野）には、
「学びに向かう力、人間性等」にあたる内容が示されている。

実際シラバス様式１でも、「学びに向かう力、人間性等」の欄があります。これは他の教科には無かったですよね。

※中学部・高等部 職業・家庭科（職業分野）にも「学びに向かう力、人間性等」の欄があります。

「（２）内容」の記載事項の文末を
「～すること」から「～している」と示すことで
評価規準として作成することができる。

では、上記を基に、基本的な評価規準（内容のまとまりごとの評価規準）の例を見てみましょう。

中学部保健体育科 1段階 内容 E球技

知識及び技能

ア　球技の楽しさや喜びに触れ，その行い方が分かり，基本的な動きや技能を身に付け，簡易化されたゲームを行うこと。

（内容のまとまりごとの評価規準例）

知識　球技の楽しさや喜びに触れ、
その行いが分かっている。

技能　基本的な動きや技能を身に付けている。

中学部保健体育科 1段階 内容 E球技

思考力、判断力、表現力等

イ　球技についての自分の課題を見付け，その解決のための活動を考えたり，工夫したりしたことを他者に伝えること。

（内容のまとまりごとの評価規準例）

思考判断　競技についての自分の課題を見付け、
その解決のための活動を考えたり、工夫したりしている。

表現　考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。

中学部保健体育科 1段階 内容 E球技

学びに向かう力、人間性等

ウ　球技に進んで取り組み，きまりや簡単なルールを守り，友達と協力したり，場や用具の安全に留意したりし，最後まで楽しく運動をすること。

（内容のまとまりごとの評価規準例）

主体的に学習に取り組む態度　球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、
友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、
最後まで楽しく運動をしようとしている。

２．全体研修資料
（1）全校研究①

資質・能力の三つの柱

学習指導要領

知識及び技能

何を理解しているか、何ができるか

思考力、判断力、表現力等

理解していること・できることをどう使うか

学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

各教科の指導を通してどのような資質・能力を目指すのか明確にする必要がある。

資質・能力や観点名のイメージだけで一律で捉えるのではなく、教科の特質や違いを確認することが大切。

例えば、教科によって今回はこんな違いがありしたね。

○「学びに向かう力、人間性等」について
学習指導要領の内容には示されていない教科がほとんど。

○「思考・判断」と「表現」の評価規準が明確に分かれている教科がある。　など。

このように、
教科によって異なる部分があるため、
目標や評価規準を設定する際には、
必ず、学習指導要領や学習指導要領解説で
教科目標や段階の目標、内容とその解説、
評価の観点の趣旨などを確認することが大切です。

評価規準作成のポイント

そして、基本的な評価規準（内容のまとまりごとの評価規準）を作成した上で、
単元・題材の目標に沿った具体的な評価規準を設定していけるといいですね。

では、クイズです！
配布資料に書き込んでみてね！

【共通問題】

体育科 単元「ゴール型ゲーム（タグラグビー）」の評価規準とあてはまる観点とを線で結んでください。

【共通問題】体育科 単元「ゴール型ゲーム（タグラグビー）」

技能	パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりするときの工夫を友達に伝えている。
思考判断	ボールを持ったときにゴールに体を向けている。
主体的に学習に取り組む態度	ゲームの勝敗を受け入れようとしている。
表現	タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。
知識	攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。

あと 2分

3観点だから、選択肢が三つかと思ったら、
体育科だから、
「知識」「技能」「思考・判断」「表現」
「主体的に学びに向かう態度」の
５つに分かれていましたね～！

ちょっとややこしかったですね！
さぁ、答えは…？！

【共通問題】体育科 単元「ゴール型ゲーム（タグラグビー）」

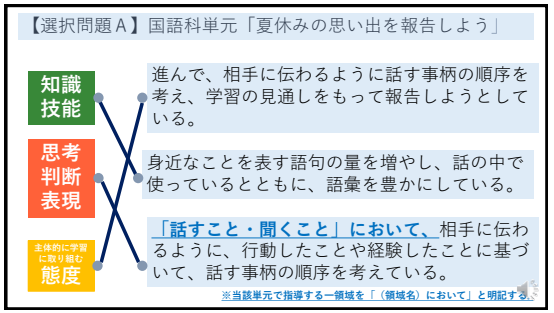
技能	パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりするときの工夫を友達に伝えている。
思考判断	ボールを持ったときにゴールに体を向けている。
主体的に学習に取り組む態度	ゲームの勝敗を受け入れようとしている。
表現	タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。
知識	攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。

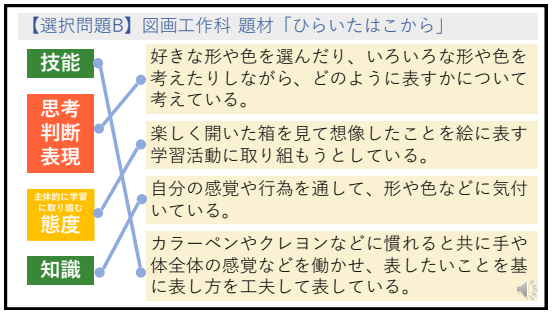
次は、選択問題！
配布資料にある【問題Ａ】または【問題Ｂ】
を選んで考えてみてね！

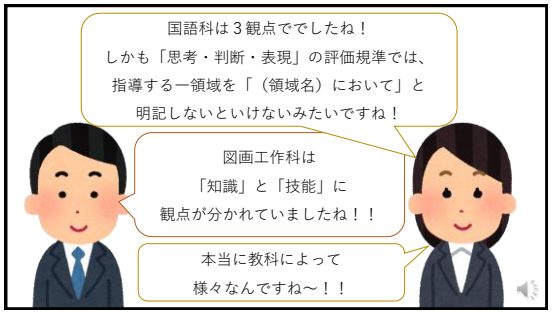
【選択問題Ａ】
国語科 単元「夏休みの思い出を報告しよう」の
評価規準とあてはまる観点とを線で結んでください。

【選択問題B】
図画工作科 題材「ひらいたはこから」の
評価規準とあてはまる観点とを線で結んでください。

２．全体研修資料
（1）全校研究①







おしまい。